

— 目 次 —

■食料供給基地・熊本

- ・供給県としての特色……………8
- ・畜産の振興……………10
- ・野菜の振興……………14
- ・熊本県農業研究実践集団からのレポート……………13
- ・49年度西瓜の取引懇談会レポート……………16

■進出企業と熊本の工業

- ・熊本の工業の推移……………26
- ・今後の工業開発と企業誘致の方針……………27
- ・進出企業と熊本経済の浮揚……………27
- ・熊本の工業発展への行政的援助……………30
- ・経営紹介……………32
- ・進出企業からの提言……………29
- ・地場企業からの提言……………32

■〈この人と30分〉

- 大覚寺総長 味岡良戒……………33

■熊本の経済〈私の提言〉

- 商業政策にもポリシーミックスを…………樋口欣……………36

■わが町・わが村〈鹿本郡菊鹿町〉……………25

■グラビアページ

- ・〈ふるさと心〉御領界限……………3
- ・山上に設けられた養豚団地と西瓜のパレード……………17
- ・新設橋竣工2題……………18
- ・大気汚染常時監視テレメーター完成……………19
- ・カラー熊本……………20
- ・着実に成果を上げる進出企業……………22
- ・県立美術館起工……………37
- ・すこしは海岸の人の身になって……………38

随 想 欄……………6

渋谷幽哉・一瀬幸子・堀川喜八郎

表紙は、「土駄引馬」森林王国小国の小国杉を運搬する馬をいいます。皮付の杉枝でつり、わら細工の胸当て、しっぽなど野趣豊かです。(阿蘇郡小国町)



▲弘法大師立像



▲持ち寄せられた小さな石仏群



▶稚いが、丹念に刻まれた十字

御領界限

小さな岡を登りつめると田墳のような頂上に達した。十坪程もあろうか藪の中の薄暗いあき地に立った。石碑が十二基、いずれもタテ、ヨコ九十センチほどにも満たず、横に伏したまま土に埋もれている。楠や竹の落葉と泥を手で拭きとると石の面に文字があるようにもみえるが判然としなない。石によつては、そこだけが存在を主張するよう片隅に十字がくつきりと刻んである。十字の刻み方は稚く、到底、石工の手になるものとは思えない。たどたどし、それでも丹念に深く刻まれた十字は、霊を送る隠れ切支丹の家族のひとり長い時間をかけて彫つたものであろうか。

飢饉と貧困に耐え、それでも秘かに天主を信じ、ひっそりと一生を終えた農夫の父の暗い日焼けした横顔を思い浮かべながら、息子は黙々とこの十字を刻んだに違いない。

「……尊きヨカレス様。褒めたつとう給え。御褒めたつとう給え。御身のごしはん、母マリヤ様この世においては、ギスを蒙り、ししを呼びだし、ある合戦においては勢を寄せ給う。……此の世においては、大将と奉る。天においてはおんとり合わせなり給う。計らい奉る。アメンデース様。」

息子はひとり「天国に導くの唱」を低く呟きながら刻み続けたであろう。潮風は彼の声を誰の耳にも届かぬように素早く空へ運んだであろう。そして、十字を刻んだ息子も十二基の石のひとつに、いま静かに眠っているのかも知れない。

藪をでるとけたたましく雉子が飛び立ち、激しい夏のひかりが眩しく射した。眼下に有明の海原が続く。

天草下島の東北、五和町御領界限には数多くの切支丹墓が見出された。その数約千基。何故かここだけにひっそりと残されてきた。

鬼の城切支丹墓碑公園には、これら無縁の墓が移され、里人たちの供養によつて手厚く葬られている。しかも、同じ公園の頂上には、弘法大師、薬王菩薩の像も建立され、御領の里を見守るようにそびえている。いまの里人たちは、現世に願をかけるとき、ここに小さな石仏を持ち寄るといふ。そして、切支丹信者はこの里に根絶した。

しかし、願をかけねばならぬような苦しみか現世に絶えぬ限り、そして願を満たす神を信じる限り、石仏であれ、十字架であれ、信仰から里人は離れることはできない。

そして、遠い祖先たち——秘かに十字を石に刻んだ人たちも、もしかすると神は己れのころの中にあることに気づいていたのかも知れない。

夏。御領の沖の潮騒が挽歌のように響く。